

お散歩感覚で
鯖江の市民活動がわがちゃらブックレット

OSANPO

～10歩目～



■鯖江市PTA連合会…6p



■SAVE JAPAN プロジェクト2021-2022…4p

What NPO can do for the SDGs

■コラム「SDGs達成のために～NPOが担うべきこと～」…10p



■チラシ&ポスターで振り返る今年度のさばえNPOサポート…16p



■非営利団体アースファムふくい…12p



■編集後記座談会…18p



■サバヌシ総会2022…14p

目次

巻頭特集「SAVE JAPAN プロジェクト 2021-2022」	4p-5p
団体紹介①×特集「N・P・Oのひとびと」 「鯖江市PTA連合会」	6p-9p
コラム「SDGs達成のために ～NPOが担うべきこと～」	10p-11p
団体紹介②「非営利団体 アースファムふくい」	12p-13p
巻末特集①「サバヌシ総会2022」	14p-15p
巻末特集②「チラシ&ポスターで振り返る 今年度のさばえNPOサポート」	16p-17p
編集後記座談会	18p-19p

『OSANPO』について

- ぶらり“お散歩”感覚で、さばえのNPOや市民活動のことが、気軽に楽しくわかる…それが、『OSANPO』のコンセプトです。
- タイトルに隠れた「NPO」(非営利の組織)は、実は身近な存在で、その気になれば、今すぐ、誰でも参加することができます。…そう、まるで“お散歩”のように☆…



初の公式ゲーム大会
開催!!



ランドスケープ大作戦
カードゲーム大会
●日時：2021年11月3日(水・祝)
●場所：鯖江市民活動交流センター



▶上位2名には世界にひとつしかない缶バッジも贈呈



『年度をまたいでシリーズ開催』

全国を舞台に、希少生物保護などの活動が続ける『SAVE JAPAN』(セーブジャパン)プロジェクト。2021年から2022年にかけての福井では、昨年度完成させた『カードゲーム』の大会&フィールド体験3回の、計4回のイベントを実施します。このページでは、そのうち前半の2つについてご報告しましょう。

『カードの組み合わせで生きものたちの楽園を』

段ごとに分かれたカードを材料に、自分だけの「世界」を創り上げるこのゲームですが、できあがったピラミッド型の小宇宙には、人間も含めた多種多様な生きものと環境、そして、それぞれの関係が紡ぎ出されます。水の流れる地域、緑豊かな里山、人々の生活の場：そして、それぞれの場所を命を育む生きものたち。初の公式大会となる今回のイベントでも、対戦するテーブルのあちこちで、現実にもありそうな：あるいは、今では失われつつあるような貴重な「ランドスケープ(景観)」が積み上がっていきましました。

『なんてドラマチック!』

大会には「予選ステージ」と「決勝ステージ」があり、予選で勝ち上がった子ども2人と大人1人による白熱の決勝バトルが勃発!

そこを勝ち抜いた2人がしのぎを削る「最終タイマン勝負」では、主催者も予想しなかった、ギリギリの攻防が繰り広げられました!

詳しいレポートは、ぜひ公式サイトの記事をご覧ください。



『伝統漁法を間近で』

12月から始まったのが、その名も「ふくい・アラレガコ学校」の体験シリーズ(3回)。

福井では「アラレガコ」の名前で知られる珍しい魚を主人公に、その不思議な一生、生息に必要な自然溢れる環境、地域の人や文化などとの関わりを学びます。

その1回目では、80年以上も前から地元で伝わるアラレガコを獲るための伝統漁法「エバ漁」を見学。今では生態調査の一環として、冬のほんの短い間だけ行われる珍しい漁です。

九頭竜川鳴鹿大堰近くの漁場では、冬の重たそうな水流に半分沈んだ状態の「エバ(カゴ)」をゆっくりと重機で持ち上げ、円錐形の仕掛けの奥にかかった魚を確認します。

この漁をはじめ、人と川との関わりを守り伝える活動を続ける「九頭竜川アラレガコ」伝統文化を守る会」の皆さんの強力なサポートもあり、とても充実したイベントとなりました。

年に1度の「エバ漁」見学!

●日時：2021年12月5日(日)
●場所：鳴鹿大堰周辺(永平寺町)

▲九頭竜川の水を呑み込む「エバ」2つ!



▲最初に県立大学で専門に研究をする田原教授からアラレガコの不思議な生態を教えてください

ふくい・アラレガコ学校
始まる!!



▲この日の漁の貴重な成果(真ん中がアラレガコ)



さばえのPTA

楽しすぎ!?

▼Zoom取材中のワンショット
※名前がないのは取材班メンバー



さばえし ビーティーイー れんごうかい
鯖江市PTA連合会 まちづくり 教育 文化 その他

『鯖江市PTA連合会』(市P連) についての基礎知識

PTAとは、子どもの福祉と教育効果の向上などを目的とした保護者と教師の会のこと。
学校に通う子どもたちのいる家庭が直接係わるのは、通学する学校ごとのPTAで、「単位PTA」(単P)とも呼ばれます。
その単Pが市町レベルで集まった連合体が市(町)の「PTA連合会」。
今回お話をうかがったのは、鯖江市PTA連合会令和3年度役員の方です。
この記事では、たまたま保護者の立場の役員さんに取材を受けていただく形になりましたが、「校長会代表」や「事務局長」の立場で教師の肩書きを持つ皆さんも会を支えるとても大切な存在です。
ちなみに都道府県単位の連合会や、全国レベルの組織もあり、それぞれ「県P連」「日P」などと呼ばれることがあります。

「PTA」…パレンツ(保護者)・ティーチャーズ(教師)・アソシエーション(組織)の頭文字を取ったこの言葉。世間のだいたいの人が知っていて、子どもがいる家庭では、ほぼ自動的に関わる会です。もしかすると、「お堅そう」な印象を持つ人も多いかもしれませんが、ところが、令和3年度の『鯖江市PTA連合会』役員には、かなり個性的なメンバーがそろっているとの情報をキャッチ！
広い意味でNPO(非営利組織)でもあるこの会の「ひとびと」にも注目しながら、おそろおそろ(?)取材を敢行しました。

『あれ?思ってたのと
ゼンゼン違う!』

取材をスタートさせてすぐに気づいたのが、皆さんの和気あいあいとした雰囲気。

「お堅い」とかとは正反対な、フランクで暖かいオーラがオンラインでも伝わってくるなんて…。

先入観からおっかなびっくりだった取材側も、おかげで緊張のハードルをドンと降ろすことができました。

そんな居心地良さげな皆さんのヒミツにも迫ってみたい!
では、基本的な質問から…

『市P連で何するの?』

まずは岡田会長から、市P連の役割について簡単に説明していただけますか?

岡田 学校ごとの単P同士を繋げたり

係をブレイクスルーする大切な機会を
いただけたなって。

できるところから誰でもPTA活動に参加できるんだよって。

それを確かめてもらえる例になればと挑戦したのも理由のひとつです。

不安もあったけど、家族も応援してくれて、ここまでこれで良かった。

岡田 確かにPTA役員も、男女半々の割合になると良いよね、なんて話もしてますよ。

三村さん 三村さんはどんな経緯で市P連に? 三村 上の子ども頃から単Pの活動はしてたんですけど、市P連にはOBさんからお誘いを受けてですね。

—広報委員長の三村さんに大熊さん、その他にも2人の女性役員がいる今年度の鯖江市連合会は、県内でも女性比率が高いそうです。

鯖江市も推進するSDGsの目標5、「ジェンダー平等の実現」にもつながって、ちょっと誇らしいですね。

ここで、阿辺山さんからも市P連への思いが語られました。

阿辺山 自分は県外出身なんで、ワケも分からずいきなり小学校の単P役員を引き受けたのが始まりです。

でも、そのおかげでPTAの先輩に、いろんなところへ連れて行ってもらいたくさんの人に会わせてもらいで、それまでは鯖江での友人知人がほとんどいなかったのに、一挙に仲間も居場所も増えたんですよ。

PTA活動は、もちろん子どものためのものであるけど、同時に「自分のための活動」だとも思っています!

団体紹介 N・P・Oのひとびと —特別合体企画—

支援するのが大切な役目ですね。学校単位のPTA活動はメンバーの距離感が近い分、視野が狭まりがちなのもあるんですが、そんな時「お隣の単Pさんは、こんな活動してるよ。」みたいなやりとりで、それぞれの視点や伝統みたいなものを共有できたりすることもあります。

そうした機会をオフィシャルに提供することが、まずひとつ。

他には、単Pでは催すことが難しい大規模なイベントや、一人でも多くの会員さんに参加してほしい講演会の開催みたいな、スケールメリットを活かせる事業も、市P連が中心になってやっています。

—単P支援委員長の阿辺山さん、副会長の山崎さんからも追加のご意見が続きます。

阿辺山 単Pから上がってきた意見をまとめて、県P連や行政に上げていくことも大事。

山崎 確かに。単Pの活動だけで見えなかった考え方を、隣の単Pとも、県や全国レベルの組織とも学びあえるよう繋げるのは、ぼくたちの役割ですね。

—単Pの個性や文化を大事にしながら、ヨコにもタテにも色々なことがらを「共有」していく。…そんな市P連の姿が少しずつ理解できてきました。

『役員就任、それぞれの道』

—話題は市P連の役員になったきっ

かけへと移ります。全国的にはPTA活動の負担感なども話題に上がる中、どんな経緯で引き受けたのか。口火は令和2年度の会長で、今は顧問の一人でもある岩原さんが切ってくれました。

岩原 小・中学校と単Pの役員を経験して、同じ時期に市P連の役員もさせてもらいました。

市P連の会長は、市内3中学の持ち回りでポストが回ってくる慣例があるんですね。自分が会長になったのは、ちょうどそれがうちの学校の順番だったのと「他の方にはお願いできないだろうな」と判断したからでした。

ただ、自分としては小学校の単P副会長時代に、校区内で発生した交通事故についての強い思いがあって、交通安全への課題にPTA全体で目を向けるきっかけを作りたいって理由も一方でありましたね。

山崎 自分も中学校の単P役職を引き受ける時、単Pの会長になるのを避けたくて他の役職を受けたんです。ただ、いざ次年度の会長を決める段になると自分が経験していない役職を他人に頼むのには抵抗があった…

結局、自分でそのレールに乗っかることにしちゃいました。(笑)

岡田 いやあ、自分も山崎副会長と同じく、単Pでレールに乗っかっていて気がついたら今の立場になってました。ただ、正直やらせてもらって本当に良かったと思ってます。

大人になって凝り固まりがちな人間関係



▲R3年度の子育て講演会はICTを駆使
▼R元年度は十二単で伝統に触れる

写真提供(3枚とも):
鯖江市PTA連合会

『私にもできる!』

—ここで大熊副会長からも違う視点の「就任理由」が。

大熊 もちろん、母校のために何かができるばっていうのはありました。

ただ、PTAの役員や会長さんという人、ほとんどは男性で、それも自営の勤め人でお母さんにはできないの?…

そんな気持ちがあったんです。でも違いますよ。

性別や仕事に関係なく、垣根を越えて、

「阿辺山さん、熱い！（後で聞いたら、いつもに比べるとまだまだ「ぬるま湯」レベルだそう…）」
ともかく、メンバーの皆さんが市P連の集まりを、大切な「自分たちの居場所」として共有しているのがジンジン伝わってきます。

最初に感じた「居心地の良さ」が、その一体感に根ざしているのは間違いなさそう。

そんな会員さんが交流を深めるため



のヒミツ：何かありますか？
岡田 ああ。毎年秋にソフトバレーボール大会を開催してたんですが、コロナで、ここ2年間でできてないんですよ。

『ソフトバレーボールで チーム意識覚醒☆』

過去の大会の様子を知っている、堀江副会長と阿辺山さんのお話です。

堀江 これねえ、やると盛り上がるんですよ。単Pごとにチームを組んで、学校の先生に入ってもうらうところもあるし、ガチで対戦しますからね。

阿辺山 会費で用意する賞品もあって、皆さん大会前の練習から

「絶対勝つぞー」ってカンジだね。堀江 最初は、単Pで「ソフトバレーボールやろうよ」って声かけても、まず「できんわ〜」「無理や〜」とネガティブなお返事ばっ



▲R元年度のソフトバレーボール大会
写真提供(2枚とも)：鯖江市PTA連合会

の「楽しさ」だと言えるかもしれません。勉強になります。

『メリハリと継承』

「ここまでで、皆さんの豊かなコミュニケーション、責任、やりがい等について聞かせていただけたと思います。よく全国ニュースで話題になるような「負担だらけのPTA」といった状況とは別世界にも見えたのですが、鯖江市の市P連は何が違うんでしょう？」

堀江 いや、役員さんのなり手が無いのは鯖江も同じでしょう。活動自体も後悔と勉強の繰り返しみたいなのもある。ただ、参加すると、自分の子だけじゃなくて、他のたかさんの子どもさんたちを見させてもらえるし、活動の手応えとか、得るものもたくさんあるのは間違いありません。

阿辺山 私見ですが、市もそうだけど、県や国に行くほど、その場を楽しもうという力がすごい気がしますね。

あと、メリハリがきちんとしている。岩原 そう。メリハリは重要ですね。

子どもたちの可能性を守っていけるように、家庭とも学校とも、組織間でも連携して活動する。そのためには、絶対に「なあなあ」ですませてはいけない部分があります。文句を言うだけで解決することもほと

んどない。みんなが当事者として汗をかくことは大事なんです。鯖江市の市P連には、諸先輩方が築

いてきた良い色の組織があると思うので、それをその年ごとの役員で「もっといいものにしていこうよ」というのが繋がってるんじゃないかな。

「我が子が卒業すれば離れる組織ではあるけど、大切な「何か」は継承されてる：みたいな感じですか？」

大熊 実際、メンバーが交代しても、継続して取り組んで成果を出したのもあって、それができるのが市P連だとも思います。

今年、県の条例で、自転車での子供のヘルメット努力義務化が定められたのも、市P、県Pが一年一年地道に活動を積み重ねてきた結果ですよ。

『PTA→PTCA』

最後に、今後の世代に託したい思いとかはありますか？

岡田 PTAからPTCAにしていければというのがあります。

「加わった「C」はなんでしよう？」
岡田 コミュニティ（地域社会）のことを指します。

もともと地域で子どもたちの見守り活動でお世話になっていたり、核家族化が進む中で地域が子どもをサポートしてくれる。そういったものを明文化して、社会で意識しても良いのかなと。地域で子どもを育てつつ、子ども

かりですけどね。

「とりあえずやってみよう！」で始めると、知らないうちに練習の回数が増えていったり、メンバー間のコミュニケーションが深まったりで、本当に仲間意識が生まれるんですよ。

大熊 「さん」から「ちゃん」で呼び合うようになったりね。(笑)

阿辺山 本気になってくると、みんな目の色が変わってきますから！

堀江 もちろん、その時の単Pメンバーにもよりますが、情熱的な人がいれば、一体感を見出せる凄く良いチャンスになると思います。

だから前から言ってるんだけど、秋とかよりも、年度の序盤に時期を前倒し開催してもイイんじゃないかなあ。

一体感が出てからの方が、単Pでも市P連でも、事業に好影響をもたらしてくれそうだな。

これは、一日でも早くコロナ禍の収束を祈りたくります。

そして、今の市P連役員の皆さんが、「一体感」や「コミュニケーション」の深まりを「PTA活動にとっても大切なもの」だと確信していることも伝わってきました。

『「J」が「楽」なP...』

「なんだか取材してるうちに、自分たちまで皆さんの仲間になっちゃったような気分です。

PTA活動がこんなに楽しいのなら、

も地域に根を張れるってことです。

大熊 子どもの体力・学力トップクラスの福井県でも、大きくなって県外に行ってしまう子も多いじゃないですか。そういう子どもたちが、将来「自分たちが育ったふるさとの教育が良いな」って戻ってきてくれるようになると嬉しいですよ。

堀江 都会から見ると、福井県は教育に適した環境だって話を講演会で聞いたことがあります。

自分たちの活動を「福井モデル」として発信するのもアリじゃないかな。そのためにも、いろんな立場の人たちが参加しやすい環境を大事にしつつ、新しい可能性にチャレンジできるように繋げていきたいです。

湧口 現状は市内3中学校だけで三役を持ち回りしてますけど、保護者の負担軽減や、違う視点の皆さんに参加してもらおう意味でも、今後はもう少し幅を広げて人材を集めても良いのかもじゃないかな。

楽しい会話の合間にも、すぐにシリアスな話題で盛り上がる展開。これぞ「メリハリ」の神髄です!!



予定時間を大幅に延長して、盛り上がった取材も終了。
まず感じたのは、メンバーの皆さんたちの豊かなキャラクターでした。陽気な人、冷静な人、ツッコミ系の人、ゆったり構えた人、こだわり重視

そのことを、もっと保護者や市民の皆さんにも知ってほしいですよ。

阿辺山 実は自分も「PTA活動は、ホント楽しいんだよ」って伝えるのが役目だと思ってます。(笑)

大熊 多分、私たちの市P連が楽しいのは、言いたいことを付度なしでズバズバ言えるからかなって思うんですよ。直接集まりづらい世の中が続く中、ZoomやLINEを使って、こんなに充実した関係性を構築できていることに脱帽です。

と、ここで岩原さんと同じく顧問であり、県P連の広報委員長も務める湧口さんから、別角度のご意見が。

湧口 実は私自身は、(PTA活動で)最初から楽しさを求めてはいけないう考え方で、最終的に楽しかったならそれでよし：くらいに思ってます。単P、市P連、県P連と役をさせてもらってますが、例えばいろんな会合で意見を求められた時、知識不足で答えられないようだとその責任が果たせていないということ。

だから子供たちのため、そしてPTA活動をもっと広く知っていただくために頑張ってきました。

とは言え、今回こうしてNPOサポートの皆さんと出会えたことも含めて、PTAに携わることが良い経験になったことは間違い無いと思っています。

なるほど、その時その時の楽しさもさることながら、自分の活動そのものに価値を見いだせれば、それは究極

の人、押しの強い人、奥ゆかしい人：今回、残念ながら参加できなかった皆さんも、もれなくキラリと光る個性の持ち主のこと。

そんな会全体を、岡田会長が懐深く受け止めることで、本音で話し合える貴重な「場」が育っていったようにも感じました。事実、校長会や事務局の立場で関わられた「教師メンバー」のお二人からも、活動への惜しみない感謝と感謝の言葉があったそうです。

子どもたちひとりひとりを尊重するように、PTAの皆さんひとりひとりも、個性的に輝くことの大切さ。

その「実例」に触れられる嬉しい出会いをありがとうございました！

〒916-0024 鯖江市長泉寺町1-9-20
鯖江市民活動交流センター内
TEL:0778-54-7055
FAX:0778-54-7058
http://cpta.main.jp/
cpta@sabae-npo.org

- 代表者…岡田 将人(令和3年度)
- 活動開始…1955年
- 正会員数…6447名(2022年4月現在)
- 賛助会員…なし

◎活動目的
各学校の子ども・家庭・学校・地域・行政・PTAを繋げ、子どもたちの生活や教育環境の充実のために活動中です。



コラム
エスディージーズ

SDGs達成のために

～NPOが担うべきこと～

認定特定非営利活動法人 **さばえNPOサポート**
理事長 **八田 登師男**

最近メディアにも頻繁に取り上げられるようになった「SDGs(エスディージーズ)持続可能な開発目標」。SDGsには、17の目標、169の取り組みべき内容としてのターゲット、232の具体的数値指標があります。またそこには、「誰一人取り残さない」という理念もあります。

SDGs目標達成には 覚悟も必要

日本でのSDGsの進捗状況は、(元となるデータのある国)163カ国中、19位と評価されています。

また、目標ごとでもバラツキがあり、目標5(ジェンダー平等)を含む6つの項目では、最低評価を受けています。

日本では、男女ともに意識のうえでは、「ジェンダー差別(不平等)」があつてはならない」と思っている比率は、他の国と遜色がありません。

しかしながら、実際の社会情勢や(小さい時から刷り込まれてきた潜在意識から来る?)行動・言動においては、ジェンダー不平等が歴然と存在しています。

この中では特に政治分野でのジェンダー不平等が大きく、意識のうえでは政治分野においてもジェンダー平等を肯定しているものの、議員の女性比率となると非常に低く、これが世界的順位を押し下げている大きな要因となっています。

きない”のであれば、それは大きな問題だと言うことです)

一方、「男らしさ」や「女らしさ」と言うもの(生物学上の男・女と言うことではなく)を、自己のアイデンティティとして持つこと(人に求めたり、押し付けたりしてはダメですが)は大事なことだと思っています。

ただこれは、「LGBTQ」(エルジー・ビィ・ティー・キュー・ィ・異性愛者”にくくれない性的自認や指向を持つ人を表す言葉)の方々の存在を無視している訳ではなく、「自分らしさ」の認知・発信の必要性を強調するための例えであることをお断りしておきます。

目標達成のための NPOの必要性

地球上の生物で、感情があることと、「言語」での意思疎通が可能であることが確認できているのは人間だけです。で、人間目線になるのは仕方がないと思うのですが、できることなら地球上の全ての生物が生存し続けられる地球環境を目指して行かなければなりません。

また、SDGsは欧米の人たちだけで作られたものではないのですが、人によっては、目標や各種表現の中に「欧米的価値観」「宗教観」を感じ取って、“鼻につく”と受け取ってしまう場合もあるかもしれません。

これには、女性と男性との意識のジェンダーギャップが大きく関係していると言え、社会全体で男女平等になっているかとの問いに対し、男性は54%が男性優位と答えているのに対し、女性は75%が男性優位と答え、その差が約20%と大変大きくなっています。

これは家事労働においても同様で、男性は「やっている」と思っているも、女性からは「マダマダ甘い(お手伝い程度)！」と思われているのが現状でしょう。

女性が議員として活動したいと思つた時、選挙や議員としての活動の際、パートナーのバックアップが家庭の内外で必要不可欠となります。これは男性でも同様で、「本人は選挙に出たいのに(家族(特に配偶者)の反対で断念した」と言う話は多々聞きます。

少なくとも現状では、男性側に「家庭のことはオレに任せろ。貴女は議員として精一杯努めてくれ！」ぐらいの覚悟とスキルが無ければ、後顧の憂いばかりで、とても議員活動はできないでしょう。

これが女性の政治分野での活躍を阻害している大きな要因となっていると考えます。

ただし、これを「男性の意識・覚悟不足」とだけ捉えるのには注意が必要で、「議員として政治参加することの可否を“家庭の事情”とするだけでは、問題点がぼやけてしまう危険もあります。

受けた教育や、歴史観、文化観によって、自分なりのフィルターを持つことは普通ですし、それが様々なテラシーの基礎となることもあるので、それ自体を否定すべきでもないでしょう。

そうは言いながら、SDGsは地球上の生物が生存し、経済の恩恵もグローバルに継続させて行くために必要な取り組みですから、ひとりでも多くの人に目標を共有してもらいたいのも確かです。

その目標達成のためには、あらゆるセクター(行政や事業者・市民等)が能動的に取り組んで行く必要があります。特に個人々の生活に変化を求めめるSDGsにおいては、ただ国や自治体がいくら推奨・宣伝しても「笛吹けども踊らず」になってしまうでしょう。

消費者個人々の購買行動においては、その生産過程において不当な労働力の搾取等(非常な低賃金や強制労働・児童労働等)が行われていないものを購入することも大切ですし、メーカー等に対しその表示を求めたり、搾取的生産体制をやめるようアピールすることも必要でしょう。

ただ消費者個人々の動きだけでは、効果は低く限定的になってしまいがちです。これらのことは、消費者と市民団体が一体となって、あるいは個人の力をNPOがとりまとめて集約させる形で、事業者への自律的対応と国等への制度としての整備を求めることが必要

“家庭の事情”は人それぞれで、パートナーとのバランスも様々。もしまわりが新しい価値観を提案するにしても、かなりの慎重さが求められるものです。

それを踏まえた上で「女性の議員数を増やそう」と言うのであれば、やはり社会的にジェンダー平等の意識を醸成し、各家庭でも対等に話し合い、性別にかかわらず「政治参加しやすい」世の中にしていくのが王道に思えます。

価値観の差を 認知することも必要

SDGsの17の目標は、それぞれの国でそれぞれの言葉で表現されています。

また、それぞれの国や民族間で地勢的な環境や宗教等に根差した概念によってそれぞれの目標に対する捉え方や達成点は違ってくる。

それをなるべく分かりやすく、また可視化できるようにしたものが232の「具体的数値指標」ですが、これも達成度合いや実現性に国家間の差があるのも現状です。

田舎のネズミと町のネズミ(イソップ寓話)にあるように、育成環境の違いによって幸福感や常識の概念に違いが出てきます。

これは、「どちらが正しい」と言うものではなく、誰かの心身を傷つけたりしないのであれば多様な価値観を許

となります。SDGsに17の目標があるように、NPOにも多く(いわゆる「NPO法」上では20)の活動分野があります。

それぞれのカテゴリーにおいて、市民への啓発、具体的取組方法の提示や事業の展開、そして国や自治体に対する提言を行うことが、NPOの役割だと考えています。

SDGsは、各目標が地球規模であるだけに、個人や団体としての活動の効果が分かりにくいと言う実情があり、蟻螂(とうろう)の斧(おの)的感覚になつてしまいがちです。

しかしながら、実際には一人一人の行動なくしては、人・地域・地球・未来を変えて行くことは不可能なのです。だからこそ、ひとつの行動が世界とどうつながるのかを示しながら、個人や団体の疲弊感・無力感を防止または払拭し、達成感を感じてもらおう工夫をして行くのも、NPOの役割と言えるでしょう。

多少語弊があるかもしれませんが、やはり、「楽しくなければ市民活動・NPOじゃない」んです。

みんなで楽しみながら、そして地球の未来に希望を持って、SDGsに取り組んで行きましょう!



イイカゲンが

『いい加減』

▼フードパントリー&ドライブの仕分けが終わって、みんなでピース☆ 写真提供(12,13ページのもの全て):アースファムふくい



非営利団体
アースファムふくい

まちづくり 環境 教育 福祉 文化 その他

少し前の2020年12月、さばえNPOセンターで、家庭などから寄付された食品を、必要な皆さんへと届ける「フードパントリー」&「フードドライブ」の活動を継続しながらも、実はそれだけじゃない。定期的なそんな支援を継続しながらも、奥深くも軽やかなアイデアをカタチにし続けているのが「アースファムふくい」です。

『みんなみんな
生きているんだ♪』

Zoomでの取材に対応していただいたのは、代表の見延えりさん。鯖江市上野田町にある古民家カフェ&教室「ラシック」の経営者でもあります。

団体名の「アースファム」とは、アース＝地球のファミリー＝家族の意味。「人間も、動物も、植物も、虫とか菌とかも、みんな地球の家族だよってスタンスなんです。」

どこか颯爽として論理的な語りの中に「菌」なんて言葉が入っていると驚くかもしれませんが、それには理由が。活動のひとつに土のチカラを活かした「野菜の栽培&収穫体験」もあって、「土壌菌」を含めた「微生物」たちも、当然地球の大きなサイクルを担う家族の一員というわけです。実際、そんな多様な存在へのリスペクト(尊敬)が、「フードパントリー」「フードドライブ」活動の原点になっているとのこと。



代表の見延さん

『2時間で11人』

活動の核となっているメンバーは、いろいろなスキルや知識を持った個性豊かな女性たち。

年代は30代〜60代、地域も近所というわけではないけれど、「食」「エコ」「心理」「野草」など…中にはスピリチュアル方面に造詣の深いメンバーもいて、みんながお互いの性格や価値観を尊重し合える仲間だそう。「立ち上げの時、NPO法人にする可能性も考えていたので、とにかく法律で必要な10人集めよう!…ってことで声をかけたら、どんどんみんなも乗ってきてくれて、2時間で11人になりました。」

な、いろいろなことをしゃべりたくて来てくれるのかも。」

あ〜なるほど!

そこでひとつ思うことができました。

『コミュ+コミュ』

実は取材前に『アースファムふくい』のフェイスブックを見て思ったのが、本当にいろんな角度の企画をしていて「とらえどころが難しい団体さんなのかしら?」という漠然とした感触だったのです。…が、今の言葉がヒントになりそう。

それぞれの企画は、楽しみながら参加できる「方法」で、そこでの「コミュニケーション」が育む「コミュニティ」(共同体/仲間)そのものに、活動の本質が秘められているのかも…

そう受け止めれば、どうして会の皆さんが、こんな風に変幻自在に、無理なく、楽しみながら活動を続けていられるのかも見えてきます。

取材側の私たちも、時おり他の団体さんから、「『事業の成功』を重視しすぎて、数値目標や継続へのプレッシャーがメンバーを疲弊させていく…」なんて話を聞くことがあります。

もちろん「事業の成功」が大切なのはわかりますが、そこにもし「方法」と「本質」の本末転倒があったならば、個人をすり潰しながら事業や団体が継続するみたいな、痛々しい図式ができて上がっているのかもしれない。



◀畑で活動中!
その他にも、「石臼できなこ作り」「心理学」「マッサージ」など、多彩な企画をプロデュース



それまでお店に入りに入りに来てくれた人をはじめ、まさに「ご縁」でつながった皆さん。でも、ただのお友だちグループと違うのは、他の皆さんにもイベントの窓口を開いて、一緒に楽しい時間を共有するところです。

「いろんなイベントや教室を企画しちゃうけど、ある意味、全てが『コミュニケーション』なのかもしれないって思うことがあります。」

畑のイベントでも、フードパントリーや子ども食堂でもそうですけど、ただ体験したり食べることを以上に、みんな

そう思うと、見延さんたちの活動には、示唆に富むヒントが隠れているように思えます。

『いっかげん』

今後は、もっと「子育て」や「子ども」に関わる活動も増やしたいと、将来への意欲も満々です。

そんな、自分たちの興味や楽しさを魅力的な企画に落とし込み、次々と生み出していく秘訣とは何でしょう。「お互いのコミュニケーションや信頼感はもちろんでしょうけど、良い加減の『イイカゲンさ』は大事なかな。」

聞けば、個性派の仲間が生き生きと頑張れるのは、それぞれの価値観や距離感、モラルや動き方のテンポも含めて、自分の「あるべき」を押しつけすぎないことがとても大切とのこと。

そこには、自分が「正しい」と思うことを誰かに強制する危うさだけじゃなく、自分自身が「正しさ」に囚われすぎることへの危惧も含まれているように見えました。

「とにかくひとりひとりが、自然体でゆるく、楽しく人生を過ごせる…」

そんな地域や地球であってほしいと思いますね。」

毎日を「目的」のために全力で生きている人にとっては、一見「夢物語」のように聞こえるかもしれませんが、もしかすると、そんな人生の「余白」にこそ、生きるコツと楽しさが埋もれて

いるのかもしれない。

”ヒトが自然を変えていく”という近代西洋の価値観ではなく、大地や生き物と対等に関わり合う、東洋的価値観とも言えそうなお話を聞きながら…

そこに「無為自然」の生き方を説いた中国の老荘思想に通じる深さを感じたのは突飛すぎでしょうか?(笑)

ふんわりとしたように見えて、実は「(地球)に足を着けた」しなやかな活動を続けている『アースファムふくい』の皆さん。

もし興味が湧いたなら、一度その扉を叩いてみるのもアリかもですよ?

基本
データ

〒916-0074 鯖江市上野田町4-45
古民家カフェ&教室 ラシック

※フェイスブックページあり
earthfam.fukui@gmail.com

●代表者…見延 えり
●活動開始…2020年2月2日
●正会員数…11名(2022年4月現在)
●賛助会員…募集中

賛助会員募集中!

ボランティア募集中!

◎活動目的
地域や地球にやさしいまちづくり、ひとづくりに寄与することを目的に活動しています。

再起動 さあ行くぞー!!

サバヌシ総会2022

主催：サバヌシ総会実行委員会 共催：鯖江市
日時：令和4年3月27日(日) 13時30分
場所：鯖江市民活動交流センター



「鯖江市民は鯖江市の株主＝サバヌシだ！」が基本コンセプトのサバヌシ総会。まる2年の「コロナ禍は、鯖江の市民活動にも多大な影響をもたらしました。そんな今年のテーマは**再起動**(リポート)」。活動縮小でモチベーションやスキルが落ちてしまったり、人との接触制限で打ち合わせすらできなかつたり…

さあ、スリープしかけた「市民主役」の議論を再開しましょう！

『本音を教えてください！』

第1部は直前に市民活動団体などを対象に行った「緊急アンケート！」の結果発表。そこから「再起動」に必要な課題を確認するのが目的です。

回答の際お願いしたのは、とにかく本音でお答えいただくことでした。コロナの影響も含め、今、鯖江の「市民主役」の現状は、うわべの意見だけで乗り越えられるほどヤワではないと思えたからです。

集計の結果『コロナ禍での悪影響』など、様々な課題が挙げられる中、一番の悩みは『人材』関連であることが浮き彫りに。

「人材不足」「世代交替」、以前から気にはなっていたけれど埋もれていた課題が、コロナの影響もあって、あらためて顕在化したようです。

『失われるもの』

第2部「コロナでもやりきった」こ

「鯖江の市民力、活動力は、宝物だと思っています。」
就任以来、2回目の参加となる市長の直球の言葉は、多くのサバヌシの胸にも届いたことでしょう。
行政と市民が、お互いどんなスタンスで関わろうとしているのか。それを対等な目線で確認できるのがサバヌシ総会の良いところ。
そして会場の全員で見つめるのは、もちろん鯖江の未来です。

各テーブルを回ると、
「無償ボランティアをお願いするのが難しい。」
「コンテンツが多様化し、市民活動参加の優先順位が低くなったのでは。」
「団体を立ち上げた人の強い思いを、どう引き継いでいけばいいだろう。」
など、考えさせられる意見がたくさん。緊急アンケートで課題の上位を占めた『人材不足』と『世代交代』は話し合いのメインターゲットでもあり、侃々諤々(かんかんがが)の議論とアイデアが湧き上がっていました。

『リセットorリポート』

再起動(リポート)とは、ゼロに戻しての再出発(リセット)ではなく、これまで蓄積してきた経験や知識を残したまま足元を見つめ、整え直して再スタートすることではないでしょうか。

この2年間、社会の変化は急でした。新型コロナウイルスが流行りだした当初は「今は元に戻るまでの耐え忍ぶ時期」という思いの毎日でしたが、いつの間にか新しい生活様式が日常に。自分の中でも、この環境なら、経験したこと何かが活かせて、どこを変えれば諦めずに済むのか。新しい分野に挑戦するのはどう？そんな風に「素の状態」を確認して、次の一歩を踏み出す機会が増えました。

あれ、だったら、そんな変化自体も立派な『再起動』なのかも?!

これまでの価値観が見直されたコロナ禍の中、鯖江の「市民主役」にも、変化が求められているのかもしれない。

そのきっかけ作りのためにも、今後の「サバヌシ総会」に期待したいですね。

だわりの活動事例発表」では、市内3団体がコロナ禍での活動経験を発表。前向きな取り組みに、熱心にメモを取る人の姿も見られました。
登壇したのは「鯖江地区まちづくり応援団」の片山さん。神明地区まちづくり応援団「楽しんで」の高岸さん。そして、「NPO法人エル・コミュニケーション」の竹部さん。
発表した事業の内容も、「狂歌コンクール」「焼き鯖販売」「さばえすじろくの制作」「地域コンサート」「地域活性化プランコンテスト」とバラエティーに富んでいます。
徹底した感染症対策をはじめ、人が集まらなくても可能な「コンテンツ作成」系プロジェクトのメリットや、対象を市外等に広げることでの事業拡大、インターネットのフル活用など、新しい発想のヒントもありました。
ただ、全てに共通したのは、工夫そのもの以上に、「中止によって地域が失うもの」「事業で受け継がれてきた

経験や絆の断絶」などへの強い思いや危機感だったのかもしれない。発表された皆さんは、結果として「実施」を選択しましたが、それが許されないケースも多かったはず。
無事、見事に完遂した団体の思い、発想、対応力に喝采を送りつつ、同時に活動の実施が否かで悩み抜いた多くのサバヌシの皆さんにも思いを馳せる内容でした。
『今そこにある課題』
第3部は「再起動！未来会議」。
1部・2部で、直面する課題や解決への手がかりを再認識し、いよいよグループワークへと移ります。
テーマは「コロナ禍でもできたこと」と『その中から見えてきた課題及び解決策』。
世代も視点も様々なサバヌシたちが6つのテーブルに分かれ、思いをつくまに意見を交わしました。

「世代間の風通しを良く、若い世代のやりたいことをサポートできるように団体内部の意識改革をする。」
「人材不足とは単なる人手不足なのか、どんな役割の人が不足しているのかを理解することから始めなくては。」
「ムダを削ぎ落とし、オンラインでの新しい繋がり活用を考える。」
限られた時間の中で発掘された意見にも、ハッとさせられたり、共感できるものがたくさん盛りでした。

市民が主役のまちづくりSABAE
<http://sabae-npo.org/shiminsyuyaku/wp/>

詳しいレポートは
ホームページでも



さばえSDGsアプリ「ハッピー」(仮称)

事前説明会

◆日時: 2022年3月16日(水) 20:00~

◆場所: さばえSDGs推進センター(めがね会館9階)



さばえSDGs推進センター × さばえNPOサポート × Code For FUKUI

【2022.3.16(水)】
〈さばえSDGsアプリ事前説明会〉
※eハッピー関連事業

根気よく 換気。



新型コロナウイルス感染症防止には換気が有効です。会議中でも1/時間に1~2回の換気をお願いします。

【2022.2.~】
施設利用者への「換気・注意喚起!」

SABAE NPO SUPPORT

SABAE NPO SUPPORT

SABAE NPO SUPPORT

SABAE NPO SUPPORT

さばえNPOサポートでは、ここでご紹介した以外にも、たくさんの方の事業に関わってきました。今後とも、ぜひ応援をお願いします!!

組織と地域のグイグイ育てる

LINE ツール 講座

2022年 3月15日(火)

【午後の部】13:30~

【夜の部】19:00~

Zoom+さばえNPOセンター

●講師: 横田 秀珠 氏

●受講料: 無料



【2022.3.15(火)】組織と地域をグイグイ育てる〈LINEツール講座〉

結局、責任取るのは国民だ。

わたしは国民だ。

責任取るのは国民だ。

10月31日(日) だから行かなきゃ総選挙☆



【~2021.10.31(日)】〈総選挙投票促進〉

市民は市の“株主”である

サバヌシ総会 2022

鯖江の市民主役、再起動!!

3月27日(日) 13:30-15:30

申込締切: 3月25日(金)

参加費: 無料



【2022.3.27(日)】〈サバヌシ総会2022〉(提案型市民主役事業)

サバヌシ総会 2022

緊急アンケートにご協力ください!!

3月13日(日)

希望・絶望 楽観・悲観...

あなたの「市民主役」は大丈夫?

https://forms.gle/Vq915mju1vXk0c6

『書き損じハガキ』でPTAを応援するのちゃ!!

※郵便として出していないものに限りです。

1月30日(日) 予定



【2021.12.下旬~2022.1.30】県P連〈書き損じハガキ募集&収集〉

お家で眠ってるベルマーク 大々々々 募集中!!

●年度ごとに「失効」してしまう種類もあります

●お家のベルマークは、「鮮度の良い」うちに、さばえNPOセンターが、おちかへの公民館まで☆



【通年】〈眠ってる「ベルマーク」大募集!〉

チラシ&ポスターで振り返る **さばえNPOサポートの令和3年度**

『OSANPO』を発行している「さばえNPOサポート」は、今年度もいろいろな事業や活動をしてきました。その記録を、チラシやポスターで振り返ります。

2021-2022 フィールド体験シリーズ SAVE JAPAN プロジェクト

ふくい・アラレガコ学校 [全3回] 体験イベント会員 大募集!!

第1回

年に1度の「エバ漁」見学

2021年 12月5日(日) 8:00~13:00

集合場所: さばえNPOセンター

●定員: 25名(先着順)

●会費(登録料): 500円(お1人)

●申込締切: 12月2日(木)



【2021.11.23(火・祝)】福井県の環境フェアにて〈ランドスケープ大作戦 カードゲーム体験ブース〉を出展

ランドスケープ大作戦 SAVE JAPAN プロジェクト

カードゲーム大会

11/3(水・祝)

10:00~(午前の部)

14:00~(午後の部)

参加費: 無料

対象: 小学4年以上の児童

定員: 各部 先着40名



【2021.11.3(水・祝)/12.5(日)】〈SAVE JAPAN プロジェクト2021-2022〉

「生きものカード」で自分だけのプリントをつくろう!

親子で楽しめるよー

はじめての人でも大かんげい!



【2021.11.23(火・祝)】福井県の環境フェアにて〈ランドスケープ大作戦 カードゲーム体験ブース〉を出展

2021-2022 フィールド体験シリーズ SAVE JAPAN プロジェクト

ふくい・アラレガコ学校

アユカケ(アラレガコ)

はじまるよっ!

予告

●お家のベルマークは、「鮮度の良い」うちに、さばえNPOセンターが、おちかへの公民館まで☆

●お家のベルマークは、「鮮度の良い」うちに、さばえNPOセンターが、おちかへの公民館まで☆

●お家のベルマークは、「鮮度の良い」うちに、さばえNPOセンターが、おちかへの公民館まで☆

▲「ふくい・アラレガコ学校」予告チラシ

【2021.9.26(日)】〈捨てるころナシの助成金活用術〉(福井市総合ボランティアセンターと連携)

SABAE NPO SUPPORT

SABAE NPO SUPPORT

SABAE NPO SUPPORT





さてさて、今年の「OSANPO」編集も佳境に入り、Zoomで恒例の座談会を行いました。果たしてどんな意見が飛び交ったのやら。軽〜く読んでいただければ幸いです。

☆恒例、新人の主張！

A はいはい。まず、今年初めて広報委員になった人から感想を聞いてみましょうかね。
B さん、どうでした？
C そうですね。初めて同席したインタビューにしても、1対1じゃなかったのが気は楽でしたし、いろんな意見も聴けて良かったな。と思ったのが率直な感想です。
D それと私の場合、さばえNPOサポートの理事もそうですが、PTAとかも含めて、いくつかの役に就いたことで自分の人生が変わったように思います。
E へえ、それはどんな風にな？
F 私、結婚して鯖江市に来たんですが、色んな役に就いたことで鯖江の色んな面を見たり、良さが分かったりだったんですね。
A その経験を活かすために、こんなこと「やりたい」「やってみる」とかの欲が出てきたみたいなんですよ。
B 以前の自分はこんなじゃなかったように思うんですけど。(笑)
C まあ、実際そうだよな。地域でも組織でも、その中にドボ浸かりになっていると、良さも悪さも気づきづらいもので、外に出てみて初めて気づくとかね。
D でも気づきを実践に移せるっていうのはすごいなあ。

☆サステイナブルNPO？

A 実は、オンラインインタビューは『OSANPO』では初めてでしたけど、Bさんの発言で助けられた場面もたくさんあって、本当に「即戦力」でした☆
B ところで話は変わるけど、最近、ちょっと気になってる話題で：「NPOの持続性やその必要性」とかについてどう思う？
C 極論、NPOって、ミッションが終わった段階で解散することもアリですよ。
D そう。継続は目指すけど、継続にこだわりはしないって感じかな。
E 自己実現のためや時限性のNPOもありですよな。
F だよねえ。NPOの継続性って、その団体に「存在意義」があるか否かがカギなんだろうな。
A そう。それと関わる人の「熱意」がないと続かない。
B 自分たちだけでむずかしい時には、私たちが中間支援NPOが手伝えることもあると思います。
C そう。「熱意」なんかは、新しい出会いとかで活性化することも多いから、「人を巻き込む能力」は大切だよな、中間支援には。
D 巻き込まれた人も、結果的に満足を得られればベストかな。
E あと、中間支援NPOには、時代に合わせた「柔軟性」も必要だと

に期待ってところですね。



軽い話もあり、含蓄に富んだ話もありで、リモートと思えないようなワイワイガヤガヤとした座談会。そんな雰囲気は伝わりましたでしょうか？
内容は我々さばえNPOサポートの公式見解ではありませんが、それぞれのメンバーの個性的な意見として楽しんでいただければ嬉しいです。
では、また次号で！

A ジタル版ですね？
B 市内の各団体さんからも、「早くして」って声があった以上にあって、ちょっと驚きました。
C まだ一緒に就いたばかりですけど、SDGsと絡めて、楽しみながら広めて行きたいです。
D これ、今回のシステムの立ち上げに関わった3つの組織が、行政を含めて、全部「非営利」だっていうのは大きいかもしれない。
E 基本的には「〇〇Pay」とかと似てますけど、仕組み自体の目的が「営利じゃない」ことに価値があるかも：
F ハッピーの新たな局面。今後の躍進

D 思う。
E そこも含めて、組織内の世代交替も大事ですよな。
F スピリットは継承しながらも時代に即した企画・運営ができる人材に交替して行くみたいなの？
A 人材育成事業などで良くある意見で「若い人たちの意見を取り入れて、若い人たちに自由に企画・運営してもらおう」って言うんだけど、「丸投げ」で任せてしまうのは、場合によりけりかな。
B 過去を知ってるメンバーにしかわからない知識や経験もあるわけだし、若い発案者も交えて現実的な企画として進められれば「自分ごと」として関わる人も増えるし。円滑に運営するには、昔っぽいけど「根回し」ってのが必要な場合もあるワケで、そういう面倒くさい部分はロールが引き受けて、時には風よけになったりしつつ、「新しいアイデア」を具体化することが必要だと思うよ。
C 「サバヌシ総会」は、まさにそれですね。
D 世代交替は本当に大切ですけど、特に地域が関わるものは、本質を「継承」しながらの「交替」にしたいかなと、単なる「世代分断」になりかねないですよな。
E ☆認定NPO法人格の継続！
A さて、いろいろと話をしてみました

D たが、ここで2021年度のトピックスについて話をしましょうか。
E まず、皆さまのおかげで認定NPO法人格の継続取得ができました。そうだね。継続には、毎年100件以上の寄付を積み重ねることが条件のひとつだけど、寄付者の皆さんへの感謝はもちろん、寄付を募っていたいただいた、事務局や理事の方々のご苦労にも本当に感謝したい。
C この条件、けっこう大変。
B 寄付をいただいた方に「自分の寄付金がこんな風に役立っているのか」って知っていただくことや、私たちが認定NPO法人格を持つことで、地域にもメリットがあることをお伝えできたら、寄付を募る時のハードルが下がるのかも。
D さばえNPOサポートのいろんな事業を知ってもらうこと、発信して行くことが、やっぱり重要ですね。「実施者も寄付者も一体」みたいな共有感があるとイイですね。
E 実はこの『OSANPO』が寄付金で発行されていることも掲載しなかつたんです。(汗)
F 今号は裏表紙に入れました！
D ☆eハッピー誕生
F それと、忘れちゃいけないのが、「ついに出来ましたeハッピー」って話かな？
D さばえ型地域通貨「ハッピー」のデ



広報メンバー募集!!

あなたもいっしょに『OSANPO』を作りませんか？
人とお話しするのが好きな方、文章を書くのが好きな方、デザインやイラスト作成が好きな方など、ぜひお気軽に事務局までご連絡ください。
待ってまーす！

【ご連絡先】
■さばえNPOサポート事務局
TEL: 0778 (54) 7055
Eメール: info@sabae-npo.org





●『OSANPO』では、これからも鯖江の市民活動団体さんを、どんどん掲載させていただきたいと思っています。「ぜひ、私たちのことも取材して!」という団体の皆さんは、さばえNPOサポートまでご一報ください。

●『OSANPO』の制作&・発行には皆様からのご寄付(賛助会費)の一部を使わせていただいています。



『OSANPO~10歩目~』
 ●2022年3月 初版発行
 ●発行人：広報委員会
 ●発行所：認定特定非営利活動法人
 さばえNPOサポート
 福井県鯖江市長泉寺町1-9-20
 TEL:0778-54-7055
 FAX:0778-54-7058
 E-mail: info@sabae-npo.org
 ●http://sabae-npo.org/

